Report 01

居室訪問

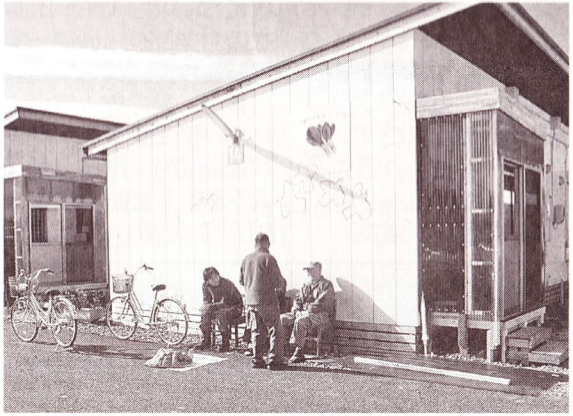
東日本大震災 仮設を訪ねて

現在、浄土真宗本願寺派東北教区災害ボランティアセンターは、名取市の仮設住宅を中心に、一軒一軒居室を訪問して、お話を伺う訪問ボランティアの活動を行っている。

その活動では、仮設の玄関口でお話を聞くこともあれば、お宅に上げていただき、お茶をいただきながらお話を聞くこともある。いずれの場合も、お話を聞きながら、同じ場所、一緒の時間を過ごすなかで、孤独による苦しみが和らぐようにという思いで活動を続けている。

訪問先で、あるご婦人からお茶をよばれた時のこと。日常会話の中にもしばしば、地震のこと、津波のことが顔をのぞかせる。しばらくして、机の上の菓子皿にご婦人の視線が止まった。その方は菓子皿を見つめつつ、「自宅の食器類はすべて流されちゃってね」と漏らされた。ふと漏れた言葉から、さまざまな想いが呼び起こされるのか、しばらくの沈黙。

津波によって流されてしまった食器類の中には、自分で作った世界でたった一つの湯飲み茶碗があったのだという。それは決して、湯飲み茶碗のみに込められた想いではなかったであろう。

その方の話に耳を傾けつつ、一つの菓子皿を一緒に眺めていた。

（安部智海）